

	<p>た。(12/21)</p> <p>○ 職員研修の計画的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員のスキルアップを図るため、次のとおり職員研修を行った。 <ul style="list-style-type: none"> スマート農業及び農産物流通論に係る先進地視察研修 (10/25~27) 令和4年度農作業安全研修受講 (10/25~27) スマート農業先端技術フェア (11/9~10) 国際水準GAP認証・次世代施設園芸の視察研修 (11/21~22) 次世代施設園芸及びGAP実践事例調査 (11/30~12/3) <p>○ 職員の資格取得の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生への教育研修業務に必要な専門知識や技術を習得するため、職員の資格取得を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 農業向けドローン資格 (3/9~10、3/15~17) 3名 家畜人工授精師 (牛) (5/9~6/3) 1名 和牛地方審査委員 (10/26~10/28) 1名 けん引免許 (6/7~10) 1名 大型特殊免許 (5/9~13) 1名 車両系 (整地等) (5/30~6/2) 2名 小型移動式クレーン (9/5~7) 2名 <p>○ 非農家出身学生等を意識した実習の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の専門知識が少ない非農家出身者に配慮し、簡単な専門用語の説明からはじめるなどの改善や農業機械の耕起・整地等を行った。(随時) ・ 卒業後の新規・雇用就農を踏まえ、高収益作物(いちご)栽培・機械実習に係る実習の充実を行った。(随時) ・ ショベルローダー、大型家畜の扱いに慣れない学生への特別補講を行った。(個別対応) 	<p>○ 職員研修の計画的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員のスキルアップを図るため、職員研修を計画的に実施する。 <p>○ 職員の資格取得の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生への教育研修業務に必要な専門知識や技術を習得するため、職員の資格取得を推進する。 <p>○ 非農家出身学生等を意識した実習の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業経験の少ない非農家出身学生等の理解促進を図るため、馴染みの薄い専門用語の解説からはじめるなど、農業の実践を意識した教育を行う。 ・ 卒業後の新規・雇用就農を踏まえ、高収益作物栽培・機械実習の充実を図る。 ・ ショベルローダーの操作や牛体管理など、重機や家畜に触れることの危険性について、安全面に最大 	<p>教務部各班</p> <p>教務部各班</p> <p>教務部各班</p>
--	---	--	--

			限配慮するとともに、講義と実習を通じて安全管理の定着を図る。	
	(2)基礎学力不足の学生対応・生活指導	<p>＜学生対応の充実・強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理解度が低い学生に対する補講について、時間数を増加するなどの充実を行った。(随時) ・ 学生の理解向上のため、復習授業の実施を行った。(随時) ○ 基礎学力不足の学生への講習会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力不足の学生を対象に基礎学力向上講習会を最大15回(48名)行った。 ○ 学生一人一人に対応した学生指導及び進路指導の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアサポート(6/3 78団体参加)を行い、進路決定率100%を達成した。 ・ 特に非農家出身学生の進路について時間をかけて個人面談を行うなど、重点的に指導助言を行った。(随時) ・ 交通安全講話を2回行った。更に、適時交通安全指導を行い、セーフティラリー(学生92名)にも取り組んだ。結果、事故発生件数は昨年比±0件だったが、交通違反は昨年比-2件に減少した。 ・ 事故や違反の防止ため目標や日々の状況を可視化できるように無事故無違反継続日数掲示看板を設置した。 ・ 社会保障制度の理解向上のため、年金講話を行った。(3/22 47名) ・ 防犯意識の向上のため、全学生を対象に防犯教室を行った。(7/6 109名)。 ・ 学生に対して共感的な立場で寄り添い、多角的に 	<p>＜学生対応の充実・強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理解度が低い学生に対する補講を行う。 ○ 基礎学力不足の学生に対する対応の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力不足の学生に対する科目(基礎数学)を設定し、学力向上を目指す。 ○ 学生一人一人に対応した学生指導及び進路指導の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の卒業後における新規就農や就職に向けた支援を図るため、道内市町村や関係企業の協力を得てキャリアサポートを行う。特に、非農家出身学生については、就農や就職など個人の希望を聴きながら、時間をかけて面談を行うなど重点的に指導助言を行う。 ・ 交通安全及び事故防止の徹底を図るための講話を行う。 ・ 社会保障制度の理解を向上するため、年金制度に関する講話を行う。 ・ 日常生活における防犯意識を高めるため防犯教室を行う。 ・ 学生個々の卒業後の生活設計に合わせて、進学及 	<p>教務部各班</p> <p>教務課</p> <p>教務部各班</p>

		<p>個々の学生に対して共通理解を図り、個人面談の充実により、生徒間トラブルは1件（昨年比プラス1件）だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 求人情報の掲示や適宜学生への面談を実施した。特に就農や就職に向けて、個人の希望を聞きながら、面談を実施するなど、指導助言を行った。 ・ 学生個々の課題設定を踏まえて、先進農家体験学習の研修先に関する受入先に係る個別指導の実施を行った。（4回、5～8月、養成課程47名） ・ アグリサポート演習を履修する学生に対し、エントリーシートの作成や模擬面接等の支援を行った。（R3.3月～5月、随時）（履修者3名：就職3名） <p>○ 複数職員による演習・実習における指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談内容が機微に触れる場合や別室にて面談する場合は複数で対応を行った。 ・ 複数職員による学生指導（チームティーチング）を引き続き行った。（随時） <p>○ 学生会、各委員会など学生自治活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍ではあるが、学校祭などの行事を行うことで、学生の自主自立を育成するとともに、各種委員会活動を活発に行った。なお、行事運営を初めて対応する職員も多いため、新たな行事の企画・運営方法を改めて検討する必要性があった。 	<p>び就職ガイダンスを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就農を希望する学生を支援するため、就農相談会等を行う。 ・ 求人情報の掲示などの進路情報の充実を図るとともに、学生への面談を通じて進路指導を行う。 ・ 学生個々の課題設定を踏まえて、先進農家体験学習の研修先に関する個別指導を実施する。 ・ アグリサポート演習を履修する学生に対しては、模擬試験や模擬面接の実施など就職活動の支援を行う。 <p>○ 複数職員による演習・実習における指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習、演習を中心に複数職員による学生指導（チームティーチング）を行い、経過については、随時確認する。 <p>○ 学生会、各委員会など学生自治活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生会、各委員会などの学生自治活動を推進する。なお、行事運営を初めて対応する職員や学生も多いため、新たな行事の企画・運営方法を改めて検討する。 	<p>教務課</p> <p>教務課</p>
	<p>(3) 職員の自己評価 取組の改善</p>	<p><職員個々のPDCAサイクル></p> <p>○ 職員ごとの改善目標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 短期、中期、長期の課題意識を教務係内で共有し、次年度に向けた計画立案に繋げている。 ・ 職員自ら行う自己評価と個人面談により、改善目標の取組成果の検証を行った。（2回（5月、10月）） ・ 教育研修業務に関わる職員全員が、前年度実績を踏まえた改善目標及び具体的取組事項を設定し、取 	<p><職員個々のPDCAサイクル></p> <p>○ 職員ごとの改善目標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 短期、中期、長期の課題意識を教務係内で共有し、次年度に向けた計画立案に繋げる。 ・ 前年度実績を踏まえた改善目標及び具体的取組事項を設定して取組を行う。 ・ 職員自らが行う自己評価と、管理職員による個人面談により、改善目標の取組成果の検証を行う。 	<p>教務部各班</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ G A P 認証農場における先進地視察を行った。(10/4) ・ スマート農業実践農業者の導入農業者を招聘し、事例紹介を行った。(1/18) ・ 帯広調理師専門学校学生の収穫体験を行った。(8/19) <p>○ 先進農業機械を導入した演習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農機具メーカーの技術者などの専門家を外来講師に招聘し、先端技術を活用した農業機械やソフトウェアの操作等に関する技術講習を行った。(12回(6/14、30、7/13、14、19、8/8、9/28、10/4、14、18、19、11/30、1/18、2/24)) ・ ドローンの活用方法やトラクターのGPSガイダンスシステム及び自動操舵システムなど、ICTを活用したスマート農業機械の操作方法を習得するための演習を行った。(スマート農業機械学演習：30時間) ・ 農業機械の基本操作や農作業安全の認識を徹底するため、外来講師等による農業機械の操作・整備・安全作業に関する研修を行った。(7/5、8/8、9/28) ・ 家畜繁殖改善のための各種ICT機器の取り扱いについて外来講師を配置し積極的な利用を進めた。 <p>○ 農業のグローバル化や多様な実需ニーズへの対応を踏まえた実践教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農場HACCPの運用に当たり、講義、演習を通じ記帳管理の徹底、防疫体制構築の重要性について実践教育を行った。 ・ GAPによる生産管理の実践的な教育を充実するため、AS I A G A Pの認証を継続し、GAPを活用した授業を行った。(GAP概論15時間)。(AS I A G A P認証：8/21、対象作物：いちご) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先進的なGAP認証農場の視察を実施する。 ・ スマート農業を実践している農業者を招聘し、事例紹介を行う。 ・ 帯広調理師専門学校の学生に対し、収穫体験を実施する。 <p>○ 先進的な農業機械を導入した演習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農機具メーカーの技術者などを外来講師に招聘し、先端技術を活用した農業機械やソフトウェアの操作等に関する技術講習を行う。 ・ ドローンの活用方法やトラクターのGNSSガイダンスシステム及び自動操舵システムなど、ICTを活用したスマート農業機械の操作方法を習得するための演習を行う。 ・ 農業機械の基本操作や農作業安全に対する意識の向上を図るため、外来講師等による農業機械の操作・整備・安全作業に関する研修を行う。 ・ 家畜繁殖管理システム(ヒータイム)や家畜体調管理システムの特徴について理解の促進を図る。 <p>○ 農業のグローバル化や多様な実需者ニーズへの対応を踏まえた実践教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農場HACCPに基づく生産管理手法を取り入れた農場運営を通じて、輸出にも対応できる生産管理や衛生管理に関する教育を行う。 ・ GAPによる生産管理の実践的な教育を充実するため、認証を受けたAS I A G A Pをベースに授業や実習での生産行程管理を指導する。 ・ 有機JAS認証を取得した有機農業の実践や、ク 	<p>教務部各班</p> <p>教務部各班</p>
--	--	--	---------------------------

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 有機JASによる環境保全型農業に実践的教育を充実するためJAS有機認証を取得・継続し、クリーン農業の授業を行った。(クリーン農業・環境保全論 15時間)(JAS有機認証: 4/28) ○ ICT等を活用したスマート農業に関する研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導機関等職員を対象に次の研修会を行った。【研修内容】 ICT農作業機実践研修(12名 9/14,15) ロボットトラクタ実践研修(24名 6/24) リモートセンシング実践研修(16名 10/21,21) ・ 高校生を対象に、高校生スマート農業実践講座を開催し、GNSS自動操舵トラクター試乗やドローン体験、環境制御ハウス視察を行った。(16名 8/2, 3) 	<p>リーン農業に関する授業を通じて、環境と調和した農業生産に係る実践的な教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ICT等を活用したスマート農業に関する研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ スマート農業の指導者を育成するため、ICTに係る研修会を実施する。 	<p>研究・研修班</p>
	<p>(2)農大情報の発信</p>	<p><情報発信力の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報委員会活動の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政パソコンが未整備となっていた職員全てに配備された。(17台) ・ 構内LANの整備については、引き続き検討する。 ○ 高校、普及センター、関係機関とのネットワーク拡充・強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集に向けた情報を発信するため、学校案内やリーフレットを道内農業者や高校等へ配付した。 ・ 延べ139校の高校を訪問し学生募集に努めた。定員確保には至らなかったものの、農業高校をはじめ、普通科高校での進路説明会に積極的に参加するなど、高校との連携の強化により、農業高校出身者が減少した一方、普通科出身者が増加し、入校学生数の増加につながった。 	<p><情報発信力の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報基盤のあり方の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政コミュニケーション基盤の整備や校内LANサーバの更新に合わせ、パソコンの整備計画を検討する。 ○ 高校、普及センター、関係機関とのネットワークの拡充・強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集に向けた情報を発信するため、学校案内やリーフレットを道内農業者や高校等への配付を行う。 ・ 農業をめざす高校生の進路サポートを行うため、全ての農業改良普及センターと連携して、道内各地で高校生を対象とした進学相談会を行う。 ・ 農大生の卒業後の就農促進に向けた取組を検討するため、市町村等の地域担い手育成センターを訪問し、新規就農や雇用就農など担い手の育成確保に関 	<p>情報委員会</p> <p>教務部各班</p>

		<p>担い手確保及び農場 HACCP について研究発表を行い情報発信を行った。</p> <p>○ マスメディアの活用による情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 12 回全国和牛能力共進会(特別区)出場について、報道機関に情報提供を行い、数多くの記事を通じて農大の取組が発信された。(北海道新聞、十勝毎日新聞、日本農業新聞、各種畜産関連雑誌、NHK 等) <p><入校志願者・研修対象者></p> <p>○ 訪問する高校・大学等の重点化と情報提供の深化</p> <ul style="list-style-type: none"> 延べ 139 校の高校を訪問し学生募集に努めた。定員確保には至らなかったものの、農業高校をはじめ、普通科高校での進路説明会に積極的に参加するなど、高校との連携の強化により、農業高校出身者が減少した一方、普通科出身者が増加し、入校学生数の増加につながった。【再掲】 入校実績のある高校など、訪問する高校・大学等の重点化を図るとともに、各高校生徒の進路説明会へ職員を派遣するなど、情報提供の充実を行った。 稲作経営専攻コースを持つ北海道拓殖短期大学に対し、研究課程への進学に向けた説明を行った。(6/22、7/21) 高校からの要望を受け、剣淵高校、真狩高校に対するガス溶接技能講習を行った。(6/21、22 17名) <p>○ オープンキャンパス、進学相談会等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業改良普及センターと連携して、進学説明会を 2 会場(7/26 中空 8/8 上川本所)で行った。 延べ 139 校の高校を訪問し学生募集に努めた。定員確保には至らなかったものの、農業高校をはじめ、普通科高校での進路説明会に積極的に参加するなど、高校との連携の強化により、農業高校出身者 	<p>○ マスメディアの活用による情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 入校式や卒業式、キャリアサポート、農大祭等の校内行事のほか、プロジェクト発表や GAP、農場 HACCP、一般研修等の農大の取組を積極的に報道機関へ情報提供を行う。 <p><入校志願者・研修対象者></p> <p>○ 学生確保等に向けた高校・大学等への積極的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 養成課程及び稲作専攻コースの学生確保に向けて、高校訪問により本校教育の説明を行う。 農業高校では農業情勢等の説明会や進学相談会を行う。 近年、普通高校からの受験生が増加傾向にあることから、入校実績のある高校を重点に普通高校に対し、受験者確保のため PR 活動を強化する。 研究課程の学生確保に向けて、短大・専門学校への訪問により本校教育の説明を行う。 高校からの要望に応じて、農業機械研修の受入れを行う。 <p>○ オープンキャンパスや進学相談会等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業をめざす高校生の進路サポートを行うため、全ての農業改良普及センターと連携して、道内各地で高校生を対象とした進学相談会を行う。【再掲】 農業高校では農業情勢等の説明会や進学相談会を行う。【再掲】 	<p>教務課</p> <p>教務課 研究・研修班</p> <p>教務課</p>
--	--	--	---	---

		<p>が減少した一方、普通科出身者が増加し、入校学生数の増加につながった。【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農大に関心のある高校生等を対象に、オープンキャンパス（第1回 7/29 33名 第2回 29名）、学校見学会（第1回 6/18 9名 第2回 8/27 5名）を行い、延べ76名（R3年度比+10名）が参加した。 <p>○ 研修受講者へのウェブサイトによる情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 農大ウェブサイト上で研修申込状況を掲載し、適時更新することにより、研修生の円滑な募集に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 農大に関心のある高校生等を対象に、農大内の施設や取組内容、在校生の意見に触れて理解を深めようためのオープンキャンパスや学校見学会を行う。 <p>○ 研修希望者等へのウェブサイトによる情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修希望者や関係機関に対して、受講案内や願書の配付などウェブサイトでの情報提供を行う。併せて、研修ごとの受講申込状況をウェブサイトに掲載し、情報提供を行う。 	研究・研修班
魅力ある教育環境づくり	(1)教育・実習施設等の計画的な整備の推進	<p><教育研修施設の充実></p> <p>○ 適切な施設等の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設等の破損箇所の修繕については、緊急性を踏まえて、工事の優先順位を精査するとともに、突発的な故障への対応を含め、次の工事を行った。 <p>【工事】</p> <p>聖峰寮男子トイレ洗浄便座設置工事 立木伐採工事 機械研修センター実習室換気設備改修 受水槽FMバルブ修繕工事（建設部予算） 浄化槽ポンプ修繕工事（建設部予算） その他管理棟、実習施設に係る緊急性の高い修繕工事を18件行った。</p> <p>【点検等】</p> <p>受水槽清掃 地下タンク定期点検清掃 簡易専用水道法定点検</p> <ul style="list-style-type: none"> 備品の計画的な整備を行った。 <p>【整備】</p>	<p><教育研修施設の充実></p> <p>○ 適切な施設等の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設等の破損箇所の修繕については、施設整備計画に基づき、計画的な修繕を行うほか、突発的な故障等への対応を行う。 <p>【工事】</p> <p>研修宿泊棟トイレ改修工事 乳牛舎パドック雨水分離工事 肉用牛舎足洗い場等設置工事</p> <p>【点検等】</p> <p>受水槽清掃 地下タンク定期点検清掃 簡易専用水道法定点検</p>	総務課

		<p>老朽化した公用車2台を10人乗りの大型バン1台に更新した。 校長室及び研究・研修執務室のエアコンを整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の適切な保守管理を行うため、次の業務について民間委託を行った。 <p>【委託】 庁舎警備、庁舎清掃、ボイラー保守、自家用電気工作物保守、消防設備保守、浄化槽点検、中央監視システム点検</p> <p>○ 老朽化した実習用機械の計画的な更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 老朽化した実習用機械の更新及び修繕を行った。 <p>【更新】（リース） 自走式カッティングミキサー、ジャンボレーキ、小型トラクター、ホイロローダー</p> <p>【修繕】 トラクター、自走式スプレーヤー、グレンドリル、コーンハーベスター、タイヤショベル、バルククーラー等の故障による修繕を行った。</p> <p>○ 農大施設の福祉環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいのある方をはじめとした、すべての人々が円滑に農大施設を利用できるよう福祉環境整備を行った。 <p>障がい者用駐車場整備工事（保健福祉部予算） オストメイト対応トイレ設置工事（保健福祉部予算）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設の適切な保守管理を行うため、次の業務について民間委託を行う。 <p>【業務委託】 庁舎警備、庁舎清掃、ボイラー保守、自家用電気工作物保守、消防設備保守、浄化槽点検</p> <p>○ 老朽化した備品や実習用機械等の計画的な更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 老朽化した備品や実習用機械等の計画的な更新を行う。 <p>【更新】 《備品》公用車、フレイクアイス製氷機 《リース》フォーレージハーベスター</p>	総務課
		<p><学生の生活環境の充実></p> <p>○ 学生寮の計画的な改修の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の生活環境の充実のため、次のとおり学生寮の修繕を行った。 <p>新館寮非常口ドア修繕工事 聖鋏寮及び聖峰寮居室ドアノブ修繕工事</p>	<p><学生の生活環境の充実></p> <p>○ 学生寮の計画的な改修の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の生活環境の充実のため、次のとおり学生寮の修繕を行う。 <p>男子寮トイレ改修工事</p>	総務課

		<p>新館寮機械室循環ポンプ修繕工事 聖鍬寮非常放送設備修繕工事</p> <p>○ 施設の有効活用を図るための長寿命化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設部との連携の下、長寿命化診断を実施し、老朽化した施設の改修方針を取りまとめた。 <p>【男子寮】</p> <p>聖峰寮：施設の長寿命化を図ることとし、R6年度から改修工事を実施する計画。</p> <p>聖鍬寮：施設の劣化が著しく、改修による長寿命化は適当でないと判断されたことから、建て替えについて検討を開始した。</p> <p>新館寮：計画修繕により、R6年度に外壁や屋上の改修を行う計画。</p> <p>【女子寮】</p> <p>聖溪寮、聖溪寮別館については、H30に大規模改修を行っているため、長寿命化等の改修は必要ないと判断された。</p>	<p>○ 施設の有効活用を図るための長寿命化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設部と連携し実施した長寿命化診断に基づき、次の改修工事の実施設計を行う。 <p>【聖峰寮】長寿命化改修</p> <p>【新館寮】外壁、屋上防水及び内装の改修、照明のLED化改修</p> <p>○ 男子寮の建て替え検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の劣化が著しく、改修による長寿命化や計画修繕の対象外とされた「聖鍬寮」の建て替えについて、検討を継続する。 	<p>総務課</p> <p>総務課、教務課</p>
		<p><計画的な施設整備の推進></p> <p>○ 中長期的な施設整備計画に基づく施設等の整備推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 農大の研修教育活動において必要な教育環境の計画的な整備を推進するため、令和4年度から概ね5年間における施設・機械の整備計画を令和4年12月に策定した。 施設の適切な保安全管理を推進するため、建設部による現地調査が行われ、今後の大規模修繕計画について協議を行った。今後は、各施設の修繕優先度に応じて計画的な修繕工事を行う。 強固な情報ネットワーク基盤の構築については、オンライン授業のあり方や手法を明らかにした上で、引き続き検討を行う。 	<p><計画的な施設整備の推進></p> <p>○ 中長期的な施設整備計画に基づく施設等の整備推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の適切な保安全管理を推進するため、令和4年度に策定した施設・機械の整備計画に基づき、各施設の修繕優先度に応じて、建築物等保全規程に基づく整備計画を策定し、必要な改修工事の実施について、建設部と協議を行う。 時代に即したな情報ネットワーク基盤の構築に向けた検討を行う。 	<p>総務課 教務部各班</p>

